



海外生活 だより

ニューヨーク事務所

現在売り出し中の島 “ルーズベルト島”

ニューヨーク事務所所長補佐 伊藤 崇宏(宮城県派遣)

ルーズベルト島について

ルーズベルト島(旧名ブラックウェル島)は、マンハッタン島とクイーンズ区との間のイーストリバーに浮かぶ、全長3.2km、幅約200m(目測)の小さな島で、もともとは刑務所や天然痘患者の隔離病棟などが立ち並び、決して良いイメージのある島ではありませんでした。しかし、1960年代後半、当時のニューヨーク市長のジョン・リンゼイ氏が島の将来的利用に係る委員会を創設、併せてニューヨーク州の都市開発公社が、島を99年間リースし、住人2万人が生活するような住居構想を打ち出したことから再開発が進み、現在はコンドミニアムが立ち並び、マンハッタンのベッドタウン的な存在となっています。人口は開発開始後わずか50年余りで1万4000人に近づく程に急成長しています。また、開発経緯のためか、島の管理は市ではなく州の外郭団体の“Roosevelt Island Operating Corporation(RIOC)”(1984年、都市開発公社から引継ぐ形で創設)が行っており、独自の交通システム及びセキュリティ体制を持っている点は非常に面白いところです。



トラムウェイ

島の交通機関は、地下鉄(MTA運営)とバス(RIOC運営とMTA運営の二種類)、トラムウェイ(RIOC運営)があり、マンハッタンだけではなく、クイーンズ方面にも簡単に行けるなど、アクセス面も良好です。ただ、島とマンハッタンとの間を接続する橋は存在せず、バスやタクシーでマンハッタン島との行き来をするためには、一度逆方面のクイーンズに出る必要があります。

さて、私はニューヨーク赴任にあたり、妻と小さな子どもを連れて渡米したわけですが、マンハッタンに比べて格段にきれい(衛生的)だということと、治安の面でも申し分がない点に魅かれて、この島に住むことを決めました。治安についてさらに付け加えますと、在ニューヨーク日本国総領事館では、ここ2年間の凶悪犯罪事件発生場所の統計を作成していますが(<http://www.ny.us.emb-japan.go.jp/j7/index.html>)、その中で当該島における凶悪犯罪は皆無の状況であるということも、治安の良さを物語っています。また、上述のとおり、島とマンハッタンをつなぐ橋が無いと、自動車の数も極端に少なく、交通事故の観点からも非常に安全と言えます。そのようなこともあり、島内の雰囲気は、忙しいイメージのニューヨークとまるで異なります。

公園をはじめとした島の公共の場の管理について

島にはいくつかの公園、遊歩道、運動場などが整備されており、非常に住環境が整っています。私が米国に赴任して、一番驚かされたのは、公園や遊歩道といった公共施設の管理のすばらしさです。島の公園内の芝生も、常に一定の長さに刈られ、夜間、人通りが少なくなると、スプリンクラーが作動し放水が行われるといった、徹底した管理状況です。そのため芝は常に、きれいな緑色の絨毯のようであり、それだけでも見とれてしまうほどの景観となっています。ルーズベルト島は上述したとおり、基本的にはニューヨーク州外郭団体が整備にあたっていますが、アパート周辺の公共の場所は、それぞれのアパートの管理会社などが、アパートの管理業務に加え、ごみ拾い、植木の手入れといったことを行っており、いわば民間主導（一部官ですが）による公共施設の管理体制が徹底していると言えます。そのすばらしさをより多くの方々に知ってもらおうと、10月上旬に職場の同僚を（半ば強制的に）島へ招待し、バーベキューパーティを開催しました。この島には、いたるところに公共のバーベキューグリルが点在し、バーベキューグリルの周辺にはテーブルと椅子、ゴミ箱、炭捨て場、公衆トイレなどが備わっています。また、常にきれいに保たれており、使用者が自主的に後片付けをしていることも島の住民の高い公共心を示す上で特筆すべきことだと思います。島を初めて訪れた同僚は、初めて見る島の風景、環境、そしてバーベキューを堪能したことと思います。



バーベキューパーティの様子

その他の楽しみ

ルーズベルト島はスポーツをする人々にも適し



人口芝のサッカー場

た環境を備えており、わざわざスポーツをするために、マンハッタンやブルックリンなど、その他の地区からも本島に通う人々が多くいます。実のところ私は、無二のサッカー好きで、島のあまりの環境のよさに、所属するチームも見つけないうちから、サッカーの用具を一通り揃えました。初めのころは、たまにストレス解消がてら、グラウンドに赴き、誰かがサッカーをしているところに、混ぜてもらおうといった具合で楽しんでいました。後に、縁あって家内の島内の友人（通称ママ友）の旦那さんが、ルーズベルト島のサッカーリーグ“SOCCER TOURNAMENT @ ROOSEVELT ISLAND”のサッカーチームに所属していることが判明したことで、現在は、知る人ぞ知る“UNICEF”チームの一員となっています。仕事の絡みは一切有りませんが、現地のプレイヤーと一緒に汗を流すことで、単にストレス解消とするだけではなく、地元コミュニティに身を置くことによる、日常生活における、非常に効率的な異文化体験をさせていただいていると思います。

終わりに

ルーズベルト島はまだまだ認知度の低い小さな島ですが、そのロケーション、住環境のほか、管理体制に至るまで、非常に恵まれたすばらしい島であることは間違いありません。現在、島の南端地区において公園開発が進行中で、環境整備に更なる磨きがかかっているこの島は、まさに現在売り出し中のランドマークとなっています。今後ますますの発展を遂げられるこのルーズベルト島に、引き続き注目していくと共に、日米を問わず多くの方々にこの島のすばらしさをPRしていきたいと思っています。